



出 会 い ふ れ あ い 助 け 合 い

あべの

NO.
94

空飛ぶソムリエ、サロンに着陸

一九九一年九月三日第二種郵便物認可(毎日発行)

サロン・あべの3月の出会い

94年3月19日(土)、育徳コ

ミュニティセンター研修室にお

いて、「空のソムリエ、サロン

に着陸」と題して、サロン・あ

べの3月の出会いを開催した。

今月のゲストは、日本航空で

国際線のチーフパーサーをされ

ている中村真典さんと、スチュ

ワードスの辻美佐さんのお二人

ワインのお話しを中心に、庶民

にはちょっと手が出ないほどの

高級ワインを、実際に飲ませて

いただいた。

中村さんは、日本航空の国際

線ファーストクラスの客室乗務

という仕事柄、ワインの専門家

としてのソムリエ資格を取られ、

「空のソムリエ」として活躍さ

れている。その中村さん以後、

日本航空からは毎年多くの、ソ

ムリエ試験合格者が出ている。

最近でこそ、一般にも知られる

ようになり、市民権を得て来た

ソムリエ。資格としては、まだ

まだ新しいのだが、ワインにつ

いての知識はもちろん、接客技

術まで試され、その難易度は高

い。

肉には赤、魚には白、という

のが一般的に知られているワイ

ンの選び方ではあるが、本当は、

赤い肉とソースには、赤ワイン、

白い肉とソースには、白ワイン

を選ぶ。サーモンは魚だが、身

が赤いので赤ワインを、逆に、

チキンには白ワインという具合

である。味は、赤ワインが辛口

のみで、白ワインには、甘口と

辛口の両方がある。また、ロゼ

は保存が利かず、どちらかとい

えば安い酒であり、ディナーに

は不向きである。

ワインは保存が難しく、振動

と乾燥は大敵である。運ぶ時な

どに、動かして振動を与えれば、

それと同じ時間だけ休ませる必

要がある。また、冷蔵庫の中は

乾燥するため、入れない方が良

い。高級ワインなどは、冷蔵庫

のモーターの振動さえも嫌うほ

どデリケートだ。一般家庭なら、

押し入れの布団の中あたりが、

保存が一番適した場所と言える。

普通ワインにはコルク栓がして

あるが、このコルクに勝る素材

もまだない。

この日は、3種類のワインを

各2本ずつ、計6本。ワインリ

スト、コップなども、すべて用



意していただいた。

まず、最初に飲ませていただいたのが、ドン・ペリニオン。

シャンパンである。

シャンパンとは、フランスのシャンパーニュ地方で作られた発泡性ワインのこと。したがって、日本製のシャンパンなどというものは存在しない。一般に、日本でシャンパンといわれているものは、スパークリングワインのことである。

2本目は、シャブリー・プル

ミエ・クリュ。白ワインである。

3本目は、渋みを抜くために

30分前から栓を開けていた赤

ワイン、サヴィニ・ボーヌである。

それぞれのワインにまつわる

お話しを伺いながら、日頃めっ

たに口にできないような、高価

なワインをいただき、今回は特

に、参加して良かった、徳をし

た、と思われた方も、多かった

に違いない。

予定では、「こんな出会いが

ほしいなあ」と題して話し合う

ことになっていった3月の出会い

であったが、以前から中村さんにはパネラーをお願いしており、

4月から転勤されることや、こ

の日は、たまたま、中村さんの

休日と重なったこともあり、急

きよ予定を変更させていただい

たのである。当日、それを知ら

ずに参加された方は、びっくり

されたと思うが、これも、うれ

しい誤算としてお許しいただき

たい。

最後は、ワインのほか、飛行

機に関する質問なども多く出され、もっともっと時間がほしいところであった。

参加者27名。司会は河合恵子。

(上平)

ワイン二題

「ショック」のあとは

「ワイン通」にヘンシーン

田中 美智子

サロンに参加したのは何年ぶりのことでしょう。常に熱いまなざしを寄せつゝ、今回も前回同様、サロンに紹介したい相談者

に同行するという、仕事がらみでやっと実現したのです。

到着するなり富田さんに「今日のテーマ

は？」とお伺いして、一瞬驚きました。

というのも、福祉、福祉でガチガチの私

には、とても予測できない答えが返って来たからです。

さすが！ サロンならではの企画で、交友関係と視野の広さを表す講師とテーマの設定で、おかげで、思いもかけない学びに

出会うことができ感謝しています。

豊富な知識と経験に裏付けされた中村さんのお話は、自信に満ちていて説得力がある上に、「ソムリエ」という称号を誇りにしておられる職業意識が、聞く者に心地よく響いてきます。

「ソムリエ」とは酒番、レストランのワイン係、フランス料理店などで、ブドウ酒を専門に扱う給仕人、という程度の浅はかな知識であったこと。知ってるつもりでいたワインに対する知識や、味わい方が、いかにあやふやな理解によるものであったかなどが、話が進むにつれて明確になって来て、ちょっとしたカルチャーショックでした。

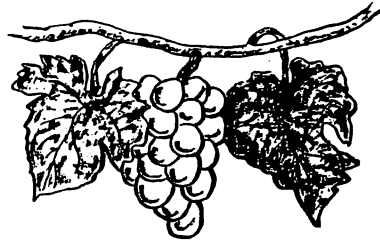
しかし、正しい知識を得て理解が深まったことで、立ち直りも早く、散会の上にはひとかどの「ワイン通」気取りで、チーフパーサーから、ファーストクラスのワインの接待を受けたことも重なってウキウキした気分になっていました。酔いも加わっての…

辻さんの物腰からは、相手の思いに懸命に応えようとする姿勢が爽やかに伝わって

きて、サロンの温かい雰囲気にはピッタリマッチしてましたネ。

それにしても久々のサロンは、期待通り心も場所でした。

元氣になられた石田さんの、こぼれるような笑顔を迎えていただいたうれしさが、次回の参加を促しています。



違いが分かる男のワイン

ビールと酒の違いがわかるというより、自慢じゃないがこの違いしかわからない男が、流行の最盛期に、遅れをとってはならじ、清水からエイヤーとばかり、大枚はたいて人気絶頂の、ボージョレヌーボーを買

った。

今はあまり騒がれなくなったが、飲まない時代に取り残されんばかりのころのおはなし。

ご承知のようにワインはコルクでキチッと栓がしてある。この栓を酒屋のおやじがおまけにくれた、らせん状の太い針金に取手をつけただけの最も簡単な「シングル」で抜く。らせんの先をコルクの真中にさし込みながらねじ込み、しっかり中に喰い込んだのを見はからって力を込めて引っぱり上げる。

講釈の多いワインのこと、五センチほどのコルクの栓にまでことは及んでくる。

要するに、せっかく眠っているワインをらんぼうに起こさないで、静かにそっと起こせ、というのである。

スポーンと気持ちよくコルクがうまく抜け、さあ飲もう、という段取りを頭に描いて一層意気があがっていた。

ところが、ビンの口にピッタリくっついたコルクは引けども引けどもピクともしない。股の間にピンを挟んで見苦しい格好をして、抜こうにも固くて駄目。そのうちに

らせんの針金は曲がってくるわ、コルクは壊れてくるわ、なにがなんでも流行に遅れまい、見栄もある。飲まずに置くものか。の一念、コルクをも通す。とうとう金槌でコルクをビンの中へ落としこんで開封に成

功。

飲み終わってビンの底に残ったコルク栓をみながら、ヘンケルのソムリエナイフでつたらうまく抜けたかな…
こんなことがあってからというもの、ワ

インといえどもつばら茶コシを使わなくていい、しかも安いスクリュー式を愛飲している。
(I)

障害者に優しい旅

身体障害者や病人、高齢者たちのために日本航空(東京・丸の内)は、二月から東京支店内に航空券予約や旅行相談窓口を設け、サービスを始めた。

この専用窓口の名称は「ブライオリティ・ゲスト予約センター」。八人の専属スタッフが午前九時から午後五時まで年中無休で対応している。国際線、国内線とも扱っており、車イスの手配やストレッチャーの準備、機内食の用意、外国空港での受け入れ態勢の問い合わせなどが主な業務。

問い合わせ先

電話 03-5259-3783
専用FAX 03-5259-0065
また、JTB出版事業局(東京・渋谷)では、「車イスで泊まれる宿」の特集を組んだ「宿泊情報 東日本編・西日本編、春・夏号」を刊行。カラーグラビアと記事を、「車イスで泊まれる宿九四軒」の一覧表が掲載されている。

(朝日新聞より抜粋)



“面白・アクセス・倶楽部” 発進!

「旭・都島車イス市民の会」では大阪から新しい風と題して、鉄道駅舎のエレベーター設置状況などが一目でわかる交通アクセス情報誌“面白・アクセス・倶楽部”を発刊しました。創刊号は大阪市営地下鉄・ニュートラムを特集しました。掲載内容は全駅アクセス早見表、駅情報案内、面白スポットなど盛り沢山です。94年のラインナップとして、今後、京阪電車、阪神電車、大阪地下街の順で特集を組む予定です。

年間購読費2000円(送料込み)で送付致します。障害者による、障害者のための有効な鉄道ガイドとなるように頑張りますので、ぜひ購読してください。

[連絡先]

旭・都島車イス市民の会・事務局

☎06-921-3616 磯崎 章一まで

●高齢者と在宅介護 8

● いもと 井元 ますみ 真澄

三、脳卒中による要介護高齢者への

援助課題(一)

今回より、新たな内容となります。脳卒中が原因で、在宅で要介護状態にある高齢者に対する調査結果をもとに、現状と対策について考えていきます。

以前にも申し上げましたが、筆者は高齢者問題からの視点にたっていますので、みなさま方からみると、もっと別の考え方やもの見方があるかと思えます。ご理解いただいた上で、またご意見などもいただければ幸いに存じます。

《はじめに》

長寿社会への道をひた進む日本において、高齢者の健康上の問題は避けて通ることはできません。典型的なものとして、「ねたきり」の状態が、大きな不安のひとつとしてあげられます。「ねたきり」の高齢者数は、高齢化の進展にともなう今後ますます増加する傾向にあり、どのように対応していくかが、大

きな課題となっています。

ねたきりに対する従来の施策の多くは、「ねたきり」状態にある高齢者やその家族への援助に主眼をおいたものであったといえます。しかし、それだけでは対症療法的な施策にとどまるため、別の角度からのアプローチが求められるようになりました。「ねたきり」になる以前の状態に目を向け、予防する方向性—すなわち、「ねたきりにいたる過程」へのアプローチです。

本研究では、この「ねたきりにいたる過程」に着目し、その1つの形として、「ねたきり」の主な原因疾患である「脳卒中」の要介護高齢者をとりあげました。これらの人々の入院から退院、在宅生活へと移行する中の生活実態について、リハビリテーションや各種サービス利用まで含めて分析を行ったうえで、問題点を明らかにし、今後の課題について検討することを、本研究の目的とします。

《ねたきりと脳卒中の現状》

ねたきりの状態にある六十五歳以上の者は、平成二年で約七十万、平成十二年には約百

万人になるという推計があります。

ねたきりの原因疾患としては、約三分の一から二分の一が「脳卒中」、約二〇分の一から一〇分の一が「骨折」で、その他筋骨格系や循環器系疾患などがあげられています。原因疾患を特定できない場合も多くなっています。

さらに、日本は諸外国に比べてねたきりの割合が高いといわれています。これには、家屋構造や生活習慣の違いのほか、様々な原因が考えられますが、ねたきりの主な原因疾患である「脳卒中」の発生率、死亡率が欧米に比べて高いことも、影響していると考えられます。



なお、「脳卒中」とは、脳の循環不全による急激な反応で、突然倒れ、意識障害を呈し、片麻痺を合併している症候群のことを指します。また、脳卒中として発症することの多い「脳出血」は、以前は脳血管疾患の主体を占めていたため、「脳卒中＝脳出血」と解されていました。しかし、近年は「脳梗塞」が増加し、「脳出血」は減少傾向にあるとのこと

です。
(出典) 神垣真澄、木戸脇富子、白澤政和
「脳卒中による要介護高齢者への援助課題
—脳卒中中の在宅要介護高齢者に対する調査結果をもとに—」、『大阪市立大学生生活科学部紀要第二十九巻』、一九九一年

再会を想う…

春の日さしのなかに、寒のもどりがあつたりと、気温が一定しない毎日です。

お変わりございませんか。「サロン・あべの」紙93号を届けていただき、ありがとうございます。

河合恵子さんの「作る つくる 創る」(9)で、いわさきちひろ絵本美術館をとりあげておられましたね。

おもろい 姉ちゃん

田 淵 美登利

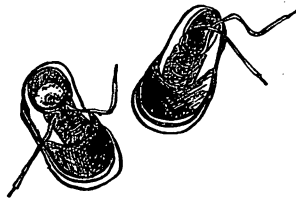
うららかマラソン

先月、春が来たとつくづく思えるうららかな陽差しの下、砂川センターマラソン大会が開催されました。何せ大きな施設のこと。十代から六〇代まで、ウォーキングコースとジョギングコースに分かれてのにぎやかな大会です。

ドクターストップでウォーキングコースなのに走る人もいれば、職員がなだめ、すかし、怒り様々な手段を用いても一向に走らず歩くジョギングコース参加者もいます。

私は五〇代の女性の伴走をしたのですが、この人の体力がすごい。目を離すと歩くものの息一つ切ら

さず、見事五〇代女性の部一位。二〇代までいれても、四位か五位という俊足に、叱咤激励しながら走った二〇代の私の息が切れたのでした。



十年ほど前に一度だけ訪れたことがありましたので、すぐに目をとりました。

先日、NTV「知ってるつもり」を見たこともあり、また行きたくなってきました。では、お元気でおすすめしてください。

先日、「知ってるつもり」を見た

万華鏡

桜、桃、あんず、こぶし、木蓮、菜の花、すみれ・・・百花繚乱の春たけなわ。西の大阪城の桜花に対する東は

● 河合恵子

作る

つくる

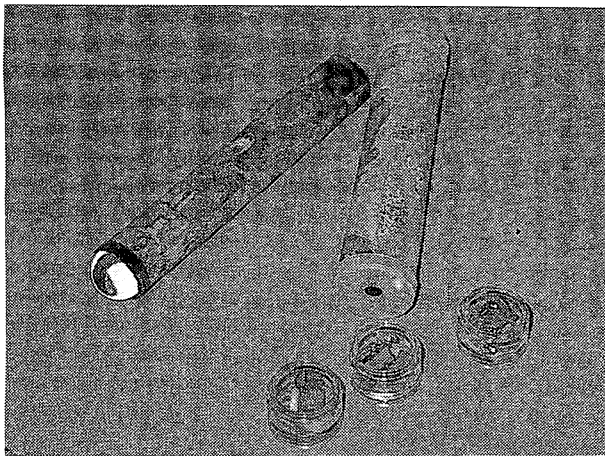
削る

10

皇居・千鳥ヶ淵。石垣を背景に花々の枝が濛の水に影を落としています。この桜の名所から歩いて数分、飛鳥建設第二ビルの一階にはプティ・ミュゼという小さな美術館があり、五月八日までシヤガールの宇宙と題する展覧会が開催されています。この美術館はいくつかの部屋に分かれていますのですが、とても設計に凝っています。例えば細長い回廊に導かれ進んでいくとシヤガ

ールの作品を描いた大きな傘状の作品の釣り下げられた円形の部屋に入ります。この部屋では作品全体をぐるりと見渡すことができるのですが、また唯一点の作品を鑑賞するためにゆつたりした椅子のある部屋、あるいは応接セツトの置かれた資料室、洒落た喫茶店もあります。会期中の企画もユニークで、ぬり絵をしたり、ワインを飲みながら万華鏡を製作するというもの。万華鏡は錦眼鏡、百色眼鏡あるいは、ばんかきようとも呼ばれるそうで、三枚の長方形の鏡板を三角柱状に組み、色紙の小片などを入れ、筒を回しながら一方の端の小孔からのぞくと美しい模様のみえるもの。色紙のかわりにガラスをはめ込み、外の景色の一部がたくさん見えるものもあります。展覧会場では二種類の万華鏡の製作キットが用意され、筒には展覧会のパンフレットを巻きつけてつくるので記念になります。作り終えた万華鏡を持って再び会

場に戻り、作品をみると花や鳥、空を飛ぶ恋人たちが明るい色彩で描かれたシヤガールの作品も文字通り、色彩の洪水。全くいつもと違った風景。花の季節、万華鏡を持って野山に遊びに行かれてはいかが？



15



はあとが、はろー！

「食」は文化と楽しみと

富田慶子

豊潤な味と香りとは、こういうものかと思いつながら静かに舌の上でワインをころがしながら、いつまでも記憶に残るような味わったのは、三月のサロンの出会いでした。食べることは、生きていくために欠かすことのない日常の行為ですが、その中から好き嫌いが生じて人それぞれの好みに応じて、食生活が豊かになったり貧粗になったりしていくようです。中でも日常の食生活のバランスは、健康を維持していく上

1993年の1年

よりよい生活ってどんな生活？ 楽しいだけでは、あきがくる。おもしろいだけの毎日も、つまらない。自分の生活を自分らしく、工夫したり、演出したりして、より充実した毎日を過ごせたら…、一九九三年度のサロンのテーマは「ベターライフ」でした。

△サロン・あべのV毎月の出会い

月・日・曜日	
平成五年	
四・十七・土	「肥満防止について」ー食と栄養そのバランスー於 研修室 パネラー 大槻敦子氏 (南療育園栄養士)
五・十五・土	「サッカー サッカー サッカー」 於 研修室 パネラー 土井俊次氏 (電動車椅子サッカークラブ 大阪ローリングタートルズ代表)
六・十九・土	「こんな出会いがあったから」ー私を育ててくれた人々ー 於 研修室 パネラー 岩田美津子氏 (ふれあい文庫主宰)
七・十七・土	「障害者としての出発」ーみんなに命を担がれてー 於 研修室 パネラー 曾我部敦子氏 (尼崎市立若草中学校教諭)
八・八・日	「さろん亭」開店 於 あべのカーニバル会場

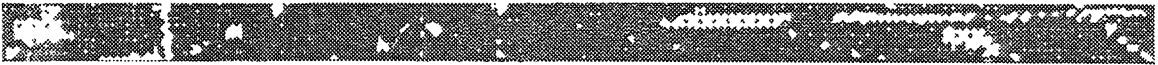
でおろそかに考えられないものだと思います。

昭和六二年五月二一日のサロンの出会い
で「夏バテ防止―この一品」をテーマに阿
倍野保健所の西村節子管理栄養士と阿倍野
区老人福祉センターの森登美子保健婦さん
方にお話を伺ったことがあります。

それは、生活行動に見合ったエネルギー
補給をすることが大切。一日三〇品目以上
を摂取することが健康を考える上で必要と
話されました。

しかし、摂りすぎ、太りすぎは成人病（
高血圧・動脈硬化・糖尿病等）の誘因とな
るということでした。

その後も健康をテーマに「ストレスてな
に？」を昭和六三年五月二一日のサロンで
北田伸彦氏（久米田病院心理検査担当技師）
にお話を伺いました。「ストレス」とは正
常でなくなろうとする体や精神を元に戻そ
うとする正常保持機能のことを言うとのこ
とでした。次のサロン（昭和六三年六月十
六日）では、今は亡きお二人大島功氏・青
藤孝文氏に各々のストレス解消法をお伺い
していますが、お二人とも多くの人達と話
をすることによっておられるのが印象的で



九・三・金

大阪府社会福祉協議会広報紙コンクールで
「サロン・あべの」紙が優良賞受賞

九・十八・土

「まちづくり条例の過去・現在・未来」

於 研修室

―真のバリアフリーをめざして―
パネラー|| 定藤丈弘氏（大阪府立大学社会福祉学
科教授）

十・十六・土

秋の日本庭園へ

於 堺市大仙公園

十一・四・木

ポランティア交流会（阿倍野区社会福祉協議会・
あべのポランティア・ビューロー主催）

於 ユニトピアささやま

十一・二〇・土

「筋ジストロフィーを語る」

於 研修室

―ある筋ジストロフィー患者の生きざまを通して―
パネラー|| 中谷敏昭氏（こさき作業所）

十一・二二・土

平成五年度大阪市ポランティア活動振興基金助成金交付決定

十二・四・土

「きつと、ええことありますよ」

於 幸分ホール

ゲスト|| 石川、小椋、森・アメリカからの留学生生八名

平成六年

「のんびりおいしい新年会」

於 ホテル・エコー十階

二・十九・土

「色の不思議な世界のお話」

於 研修室

パネラー|| 福永享子氏（シーズンカラーアナリスト）

三・十九・土

「こんな出会いがほしいなあ」

於 研修室

―空飛ぶソムリエ、サロンに着陸―
パネラー|| 中村真典氏（日本航空チーフパーサー・ソムリエ）
アシスタント|| 辻 美佐氏（日本航空スチュワーデス）

した。

楽しく食べて、楽しくお喋りをする。

これが、心身ともに健康を保つ秘訣だということですが、その上に健康な歯があればこれからの高齢化社会も怖くない。「八〇才で二〇本の歯を残そう」と歯の大切さを教えて下さったのが、平成四年十月十七日のサロンでの西田百代氏（府立身障者福祉センター付属病院歯科医）でした。

そして、平成五年五月十五日のサロンでは、「食と栄養そのバランス―肥満防止について―」を大槻敦子氏（南療育園栄養士）に話していただきました。話だけではなくカロリーを実物の対比で教えていただきましたことがとても面白いと感じました。

おにぎり半分とイチゴ（小）二三個が同じカロリー。又、ポテトチップスなら十枚と具体的に実感できました。

この時、初めて大阪市社会福祉協議会のユースボランティアの方が参加され、新しい大きな出会いともなりました。

各月のテーマにそっての寄稿もお願いして、多くの方々に貴重な話を書いていただいています。その中で「食べる」という字は、人に良いと書くと言われた松村さん

の言葉がなるほどと素直に受け止められました。

様々な食生活を見たり聞いたりしていく中で、今まで自分が感じていた食生活は、栄養・滋養を摂ることが重点にされすぎてきたように思えます。体が弱かった分だけ、

家族も体造りに気遣ってくれたお陰だと思いますが、これからは、体力だけでなく心の豊かさにつながる食生活もしていきたいものと、ワインの香りを思い出しながら考えています。

好評のサロングッズ カプリースでも販売



サロングッズの「一筆箋」と「絵葉書」が、リサイクル店「オールドクロウズ カプリース」でも販売していただけることになりました。

今までは、お求めいただきにくかったと思いますが、これからはお近くへ来られた時、ちょっとお立ち寄りしていただけたらと思っています。

オールドクロウズ カプリース

OKUDA

KURAHASHI

〒535 木・金・土の午前十一時～午後六時

住所：大阪市阿倍野区北畠一―二四―三二

TEL：〇六―六三三―〇三〇三

*カプリースはメンバー制のリサイクルのお店です。（入会金千円、年会費五百円）

過ぎた日の幸せについて

いまが辛いとき、すぎた日の幸せを思いだす。あのときは、ああだった、こうだったと昔みた映画の画面をふりかえるように、少し疲れた笑みが自分の顔に浮かんでいるのを感じながら、私の手のひらや、指や、膝を相手に話すことがある。

過ぎた日の幸せは、私たちを慰めてくれるのだろうか。それとも、いつそう、いまの自分を悲しく見せてしまうのだろうか。それは雨の日の雨宿りのような場所なのだろうか。あるいは、いつでも戻ることのできる故郷（ふるさと）のようなところなのか。

過ぎた日の幸せは、写真や手紙のなかに残っているのではない。それは過ぎた日々を思いだす導きにすぎない。その幸せは、私たちの思い出のなかにこそあったはずなのだが、思い出してみても、いつも断片的で前後がはつきりせず、そのときの言葉や風景の色もほんのわずかにしか残っていない。その気分や空気を、私の肺や肌はまだ覚

えてはいるものの、ごく単調な鈍い印象として、うつすらと記憶の片すみに蘇（よみがえ）るだけなのだ。

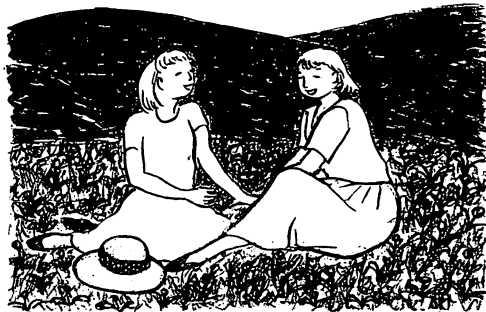
だから、過ぎた日の幸せは、どんなに努力しても、その当時のままには味わうことはできない。思いだして、その幸せにもう一度、浸（ひた）りたいと願っても、もう、それはどこにもないことに気づく。過ぎた日のことは、実は思い出のなかにさえも、ほとんど残ってはいないのである。

では、いつたい、あれは何だったのか。夢のようなものだったのか。無駄なことだったのか。人間の幸せとは、すべて一時的なもので、過ぎた後は幻のように消えていくだけにすぎないのか。

いや、そうではない、と私は思う。人から愛されていたとき、愛されることを知った。愛することができたとき愛することを学んだ。信頼できる友人に囲まれていたとき、信じることを学んだ。そして幸せであったころ、生まれ

きて良かったのだと知ったのである。過ぎた日の幸せは思い出すためにあるのではない。思い出したところで、何がでてくるだろう。もはや目を開かせるあざやかな色彩も、耳にこだまする言葉もない、ひとつの大きな雲のような気持ちだが、私たちの心を横切るだけではないか。

そうではなく過ぎた日の幸せは、私たちがここに生まれたことを祝福と思い、喜びをもって現在（いま）を生きることができる固い礎（いしずえ）なのだ。もはや、あいまいな記憶の影響向こうに遠ざかっている過ぎた幸せも、



私たちの、人を信じる姿勢や、愛する心の確かな形となつてはつきりと残っている。

私たちが、いま幸せにあるとき、その幸せにあつて、生まれていることの喜びを学んでおきたいと思う。愛情に

みちた日々をおくつているとき、豊かに愛し、安らかに愛されることを学んでおきたい。そうすれば、たとえいまの大きな幸せが過ぎ去つても、なお、小さな喜びを見つけ、そこに生きることを感謝する私を見ることができるだ

ろう。人が遠ざかり、孤りで歩む毎日が訪れても、道ゆく人を愛し、通りに立ちどまる人から安らかに愛される術(すべ)をきつと身につけているにちがいないと思うのである。(知)

ありがとう

車椅子が

寄贈できました



アルミの空き缶やプルトップを集めて業者に売り、そのお金を貯めてどこかの施設に車椅子の一台でも贈ることが出来たら…。そんなことを思いながらこつこつとアルミ缶を集めプルトップ拾いをやり、買い取ってくれる業者もいろいろと探したりしながら四年間ほどがすぎました。

もちろんそのあいだに本当にいろいろな人達が協力して頂けるようになり、私たちの力だけではとてもできないほどに沢山の空き缶やプルトップを集めていただくことが出来、自分たちが考えていたよりも速い

スピードで金額が増えていったのでした。

しかし、昨年の秋に私たちが引越したためにアルミ缶やプルトップをせっかく集めて持ってきていただいたても、置いておくところがなくなってしまったのです。

もちろんその前から置き場所が一番の悩み種だったのですが、家主や近所に気をつかいながらも何とか家の前に置いておくことが出来たのです。ただ今の家になつてからはとてもそんなことが出来る状況ではなく、仕方なくアルミ缶やプルトップを集めることは止めることにして、その代わり

古新聞やビール瓶を売ったお金を貯めていくことにしました。

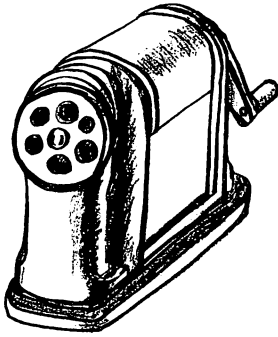
また一方で、「花博」の見学会や「ファド」のコンサート、そして「神戸しあわせの村」へ一泊旅行などのイベントを開いてきた「なんでもサロン・ハンズ」も、メンバーがそれぞれに忙しくなったり家が遠くなったりして活動していくことが難しくなり、残念ながらこの二月をもって解散することになりました。

解散するにあたりその行事のたびごとの参加者から集めさせてもらった参加費や、寄せられたカンパなどで、「ハンズ」のあとに残っていた金額を集計してみたところ思いの外多くの金額になったのです。言うまでもなく「ハンズ」は「金儲け」を目的に始めたわけではありませんし、「障害者の仲間とともに楽しめるものを企画してい

こう」という趣旨に合わせて考えてみると、残ったお金も何かの形でその趣旨にあった形で使わせてもらわなければいけないとメンバーの意見も一致しました。

そこで、それまでにアルミ缶等売って貯まっていたお金と、「ハンズ」に残っていたお金を合わせて車椅子を贈ろうということになったのです。

その二つを合わせると何とか二台の車椅子になることもあり「ハンズ」にとっても何らかの形で活動してきたことの意義を残せることになり、こつこつアルミ缶やプルトップを集めてきて三万一千円余りになった今までの苦労も、しり切れとんぼにならずに済み、その喜びも大きなものになりました。



す。

さて、次はその車椅子を受け取ってもらえる施設を探すことです。贅沢ということとなのか今ではもうほとんどの施設や老人ホームなどでは行政などから車椅子は沢山受け取ることが出来るので、私たちのように個人的に寄付させてもらってもさほどには喜んでもらえないことを知り、やはり贈らせて貰うのなら本当に必要としているところへ、と思い「ハンズ」のメンバーでもある車椅子販売のワコーサービスの和田功一さんと相談し、泉北にある在日韓国・朝鮮人の人達のための老人ホーム「社会福祉法人——こころの家族・故郷の家」へ贈らせていただくことにしました。この老人ホームは日本で老年を迎えられた在日韓国・朝鮮人の方たちを専門にケアされている所で日本でこころヶ所だということでした。車椅子を贈らせてもらった日、職員の方にホームのなかを案内していただき、入所しておられる老人の方の一人ひとりに挨拶ができ、じつに爽やかな気分浸れ、こつこつとやってきて本当に良かったと思えました。

あらためて「サロン・あべの」を通じて協力していただいた方々にお礼を申し上げるとともに、皆様の温かな思いをこうして一つのしっかりとした形として贈ることができたことをご報告させていただきます。

一九九四年三月十二日

南光龍平

仁子

「なんでもサロン・ハンズ」一同

朗読テープのご案内

山本敏子さんのご協力で、サロン・あべの紙九二号の録音テープが出来ました。

バックナンバーは三九号から、九三号の分があります。五〇号は五周年記念紙になっており、九〇分と六〇分の二本のテープに収録されています。

又、絵本「未知の記憶」(作・絵 川中川勝彦)の朗読テープも寄贈を受けました。いずれもご希望の方には、ダビングをします。富田までお申し出下さい。

(☎ 〇六六九一一〇二八)

美智子のこんな話



岸田 美智子

在宅でのリハビリを応援

重度障害者の在宅生活の問題点はいろいろありますが、その一つに健康管理の問題があります。

私のようなC.Pの人達は二〇才過ぎから二次障害に悩んだりしておられる方が多いと思います。



—— 出会い一〇〇回・サロン紙一〇〇号——を記念して
△サロンの絵葉書Vを作りました。
「花だより」と「出会いの風景」の二種類あります。
ちよつとした近況、お知らせや季節のごあいさつなどに
どうぞ。一セット五枚組¥一五〇—

また健康作りのために、何か運動するとしても介護が必要だったり、適当な設備がととのったスポーツセンターなどがないため、できないことが多いものです。

そのために老化が早くなったり、外出できなくなったり、生活を作っていけなくなったり、していつてしまいます。重度障害者の健康作りは、これからもどんどん研究されていくと思いますが、いまずぐに使えサーブスがあります。今日はその在宅ケアのことを紹介します。

私もこのケアを一週間に三回ぐらいうけています。もちろん保健を使うので経費は一切かかりません。一人で外出できない人が対象で大阪近辺ならたいいていの障害者の方がうけられると思います。

「大阪府鍼灸マッサージ師会が訪問治療」

鍼、灸、マッサージの三療の資格をもつ

人を主体につくる難大阪府鍼灸マッサージ

師会には、約一〇〇名の鍼灸マッサージ

師が加盟。平成二年度から在宅ケア委員会

を結成。現在二五〇名の登録会員がいる。

リハビリ・マッサージ技術の講習を受け

訪問治療を開始し好評を得ている。

△取扱保健V

国民健康保険・社会保険・障害者保険・

労災保険・組合保険・交通事故保険・

生活保護・老人健康保険

△保険で受けられる病気V

脳(出血・血栓・梗塞)、脳性マヒ、

脊髄損傷、無筋力症、関節リウマチ、

交通事故後遺症、その他マヒ、拘縮など

△訪問治療対象者V

歩行不能、歩行困難、医師の診断書・

同意書のある方

◎詳細は左記へ問い合わせして下さい。

大阪府鍼灸マッサージ師会・

在宅ケア委員会

☎〇六―六二四―一三三三二

皆さんも健康づくりには、いろいろ情報

を集めておられると思いますが、情報交換
 などもできたらなあと思います。
 皆さんも何かあれば、教えて下さいね…

◎連絡先：大阪市住吉区遠里小野
 五二二二二七 (千五五八)

お知らせ

サロン・あべの五月の出会い
 『大阪市立早川福祉会館』見学会
 建て替え工事も終わり、この四月に開館
 したばかりという、早川福祉会館を見学さ
 せていただきます。

五月二十一日(土)午後二時、現地集合
 をお願いします。参加人数を確認しますの
 で、事前に富田までお申し込みください。

大阪市立早川福祉会館は

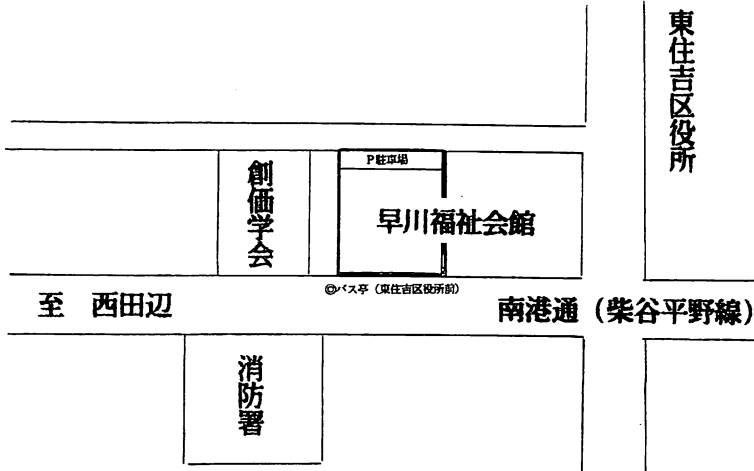
東住吉区南田辺一―九―二八

☎〇六―六二二―〇二二二

地下鉄西田辺駅から、南港通を東へ
 一キロとちよつとの所にあります。

お申し込み・お問い合わせ先

☎〇六―六九二―一〇二八 (富田慶子)



感謝します

カンパ。ハガキ、ワイン、冊子等の奇
 贈。一筆箋、絵葉書、「知らされない愛に
 ついて」等、お買い上げありがとうございました。
 ました。お礼を申し上げます。

- 大北清子、大塚一枝、小川 哲、
 - 上平幸雄、カプリース、河合恵子、
 - 富田慶子、富田万里子、中村真典、
 - 南光龍平、丸山寿美子、松本妙子、
 - 山本篤江、匿名四名。(敬称略)
- 三月のカンパ 金一四、〇〇〇円

編集後記

三月十九日(土)、空飛ぶソムリエがサ
 ロンに着陸しましたので、当初今号に予定
 していました特集「こんな出会いがあった
 らいいなあ」は、号を改めさせて頂きま
 す。寄稿いただいたみなさま、本当にごめ
 下さい。(石)

これは便利。サロンの一筆箋

手紙を書くといふのよ、どうしても構えてしまった。本や写真を贈り物にする時や、ひと言添えたい場合、送る時などにひと筆箋です。便利なのがこの「一筆箋」を書くための文字通り「一筆」なのです。ゆっくり小さな便箋なのです。「ひと言」「いぬいに書く時間がない」「ひと言」があれば一番に伝えたい「ひと言」をすぐに添えることが出来ます。「生きた言葉」が伝わります。



出会い ふれあい 助け合い
サロンあべの

サロンの一筆箋：150円

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>NO.94[94. 4.16 発行] 定価¥100。
代表；上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-19-2-303. 電話06-621-4365
連絡先；富田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26. 電話06-691-1028
表題；斉藤孝文・筆
印刷；セルフ社〒545 大阪市阿倍野区西田辺町2-2-10-101. TEL.06-691-2365.

一九九二年九月三日第三種郵便物認可(毎日発行)